

環境活動に関する報告書2024

2023年4月～2024年3月活動報告



3月 お台場海浜公園でマイクロプラスチック採取とビーチクリーンボランティア体験



4月 いなぎめぐみの里山
森林保全と竹の伐採体験



10月 見て、聞いて、話そう！交流フェスタ2023



生活協同組合パルシステム東京の理念

「食べもの」「地球環境」「人」を大切にした「社会」をつくります

ごあいさつ

パルシステム東京では、理念に基づき、「地球環境」を大切にした社会を作りため、組合員や産地、取引先とともに環境活動に取り組んでいます。

2023年度はコロナ禍が落ち着き、経済活動も以前と同程度まで再開しました。パルシステム東京でも本格的に産地訪問などの相互交流を開始し、組合員活動も活発に行われました。直接会える場とオンラインを併用することで、つながりの輪が広がっています。

一方で、社会情勢の不安要素の表面化、地球沸騰化のような気候変動が加速する中、過去に例を見ない農水産物への影響、生活用品の値上がりなどが将来への不安を強めています。また、ALPS処理水の海洋放出や原発の活用を含むGX政策などの課題や、自然災害では、2024年1月に能登半島地震という痛ましい災害も発生しています。

その中で、次世代を担う若者たちはSNSを使い、国を超えて気候変動問題解決のために声を上げています。平和やより良い地球環境を次世代に残したいという想いや、相互扶助の気持ちはとても高まっています。今の時代にパルシステム東京が求められる環境課題解決に向けた取り組みは多いと感じます。

パルシステムグループの「環境・エネルギー政策」やパルシステム東京の「環境方針」では、「脱炭素社会」、「循環型社会」、「自然共生社会」、「脱原発」を組合員と共にすすめていくことを宣言しています。2023年度の具体的な取り組み内容は本書に記載している通りですが、特に2030年に向けた「CO₂排出量削減計画」への着手、いなぎめぐみの里山の活用、各配送センターへの環境担当者の配置、若者世代との連携が新しい取り組みとなりました。

2024年度は、第7次エネルギー基本計画の改定が予定されています。これからもパルシステム東京は、理念に沿って、組合員への商品・サービスの提供や、消費者の視点から様々な環境課題の改善に向けた運動を展開していきます。



生活協同組合 パルシステム東京
専務理事 杉原 学

〈組織概要〉

名 称	生活協同組合パルシステム東京
設 立	1970年4月1日
理 事 長	松野 玲子
専 務 理 事	杉原 学
本 部 事 務 所	東京都新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿
事 業 エ リ ア	東京都全域(島しょを除く)
配 送 セ ン タ ー	17箇所
福 祉 事 業 所	13箇所
保 育 園	2箇所
職 員 数	1,768名 正規職員: 466名 / 専門職員: 175名 / 定時職員: 1,127名
総 事 業 高	863億14百万円
組 合 員 数	53万2,465人

(2024年3月末現在)

CONTENTS

1	ごあいさつ・組織概要	11～12	くらしの視点で組合員と環境活動に取り組みます。
2～3	パルシステムグループ環境・エネルギー政策		パルシステムから環境取り組みを広めたい! パルエコアース誕生!
3	パルシステム東京環境方針	13	事業活動と環境
4	組合員との約束		2023年度環境活動に関する監査所見
5～6	「脱炭素社会」の実現への取り組み	14～16	巻末資料: 開催企画一覧
7～8	「脱原発」の実現への取り組み	17～19	巻末資料: リユース・リサイクル商品一覧
9	「循環型社会」の実現への取り組み	20	巻末資料: 広報活動
10	「自然共生社会」の実現への取り組み	21	
		22	



パルシステムグループ 環境・エネルギー政策

パルシステムは、「心豊かなくらしと共生の社会を創ります」を基本とし、「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向け、三つの社会が相互につながり統合的に課題を解決し、一人ひとりのくらしを「きりかえ」、多様な命を育む環境を広げることを実践していきます。気候危機をもたらす温室効果ガス排出量の増加は人間活動によることが明らかになり、異常気象による災害が増加するなか、生物多様性の消失が進行し、気候変動対策は待ったなしの局面を迎きました。私たちは、地球環境問題は、「食料」「エネルギー」「水」「くらし方」の問題が根底にあると認識し、これまでの事業と運動両面による様々な取り組みに加え、発想の転換をおこない、地域社会とのパートナーシップを強固にし、組合員主体の生協という組織の強みを生かした環境活動の推進と気候変動対策に取り組んでいきます。

1. 基本方針

- (1) 「脱炭素社会」の実現に向けて「自らが使う電気相当量の再生可能エネルギーを作り、利用する」ことを基本の考え方とし、事業と組合員のくらしの両輪で省エネルギーの推進と温室効果ガス削減に取り組みます。
- (2) 「循環型社会」の実現を目指し、生産から加工、流通、消費、廃棄に至るまで限りある資源の効率的な利用や3Rの取り組みを進めることにより、環境への負荷を可能な限り減らします。
- (3) 「自然共生社会」の実現を目指し、自然からの多くの恵みを将来にわたって継続的に受け取るために、自然環境を大切にする活動を進めます。
- (4) 原子力発電については、未来の世代への責任と地球環境全体への責任を自覚し、「減らす」、「止める」、「切り替える」をさらに加速させ、再生可能エネルギーへの転換による資源循環型社会の構築を目指します。
- (5) 環境活動、環境に配慮した商品づくりを通して、くらしの見直しを組合員と共に推進します。

2. 課題別政策

- (1) 2050年に温室効果ガス削減目標を実質ゼロ（カーボンニュートラル）にします。
 - ①「世界の平均気温上昇を1.5度未満に抑える」ために、生協の事業面におけるCO₂総量削減の実施と目標の達成に取り組みます。
 - ②事業活動の省エネルギー化に加え、組合員家庭における省エネルギー化を推進するために、情報やサービスの提供を行います。
 - ③産直産地や森林産地と協同で、森林・里山の再生事業を行い、森林の炭素貯留機能を推進しCO₂削減に取り組みます。
- (2) 廃棄を前提としない考え方により、資源を循環させ効率的に利用する取り組みを実践します。
 - ①リデュース（発生抑制）・リユース（再使用）・リサイクル（再生利用）の3Rの取り組みを促進し、資源の活用に取り組みます。
 - ②事業活動全般におけるプラスチック排出量を削減するためリデュース（発生抑制）・リニューアブル（再生可能な資源に替える）・リサイクル（再生利用）・パートナーシップに取り組み、とりわけ使い捨てプラスチックを優先して削減します。
 - ③事業活動全般における紙の使用量を削減するとともに、持続可能な原材料への切り替えを進めます。
 - ④原料調達から供給まで、商品に関する事業から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を推進します。
- (3) 森・里・川・海の地球環境を保全する取り組みを広げ、生物多様性保全や自然災害防止に寄与します。
 - ①地球温暖化防止や生物多様性保全に効果が高い、自然環境と調和した「環境保全型農業」を広げます。
 - ②畜産飼料の海外依存を減らし国内自給を高めるため、耕畜連携の資源循環の環境を構築します。産地と連携して飼料米を始めとした自給飼料の活用を推進する「日本型畜産」の取り組みを広げます。
 - ③環境に配慮した責任ある調達を進めるフードシステムの構築を確立します。
 - ④日本の森林・林業再生の取り組みを通じて、生活に身近な里山、棚田、河川、海や生態系など、生産者と共に日本の貴重な自然を保全して次世代に引き継いでいきます。
 - ⑤河川や海洋の保全活動を推進することにより持続的な水産資源を利用していきます。

(4) 資源循環型社会の構築を目指し、原子力発電や化石燃料を使用しない再生可能エネルギーを中心とした電力の開発と普及に取り組みます。

①再生可能エネルギーが中心となる社会に向けて、組合員に再生可能エネルギー電気の普及を推進し、発電に取り組む生産者と顔と顔が見える関係を構築します。

②産直産地等とのネットワークを生かした電源開発を加速し、再生可能エネルギーへのシフトを地域との協同で推進します。

③地域の自然環境保全との調和や地元との信頼関係を築き、雇用促進、経済活動を豊かにすることを前提に、地域の風土や資源を活かした電源開発を推進します。

④原発の再稼働や増設を止める取り組み、汚染水や核のゴミから地域・環境を守る取り組みを他団体や農漁業者、次世代を担う若者と連携し行います。

(5) 組合員一人ひとりが実践できる環境負荷の少ない暮らし方を提案し広めていきます。

①日本の食料自給率向上のため国内生産物の利用拡大を推進するとともに、環境に配慮した商品の取扱品目を増やします。

②持続可能な環境保全型農業を地域に広めるため、「コア・フード」「エコ・チャレンジ」の農産物の組合員利用を広げます。

③組合員家庭で取り組む食品ロス削減運動を広げ、3Rの実践を通して廃棄物削減に取り組みます。

④天然油脂を主原料とする石けんの利用普及と、現代のくらしのなかに石けんの上手な活用を提案していきます。

⑤環境課題について地域で考え、行政やNPO及び市民団体と連携した環境保全活動や組合員活動を展開します。

2023年3月31日制定



パルシステム東京 環境方針

パルシステム東京は、理念「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」に沿って、商品やサービスの供給、福祉に関わる事業、組合員とともに社会的活動をすすめています。

私たちが行う事業や活動が環境に与える影響は、エネルギーの利用、資材の利用と廃棄、商品の開発、内外への意識啓発など多岐にわたっており、組織としての行動が問われています。

パルシステムグループでは三つの社会「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現に向け「環境・エネルギー政策」を制定しました。私たちはグループの一員として、法律等の順守をはじめ、以下の活動方針に基づく目的・目標を設定し、継続的な改善活動をすすめます。また、この方針に沿った活動をすすめていくために、役職員及び事業パートナーと十分共有し、内外に広く開示します。

1. 「脱炭素社会」の実現に向けて取り組みます。

事業所におけるCO₂排出量46%削減_{※1}を目指し、事業と組合員のくらしの両輪で省エネルギーを推進します。

2. 「循環型社会」の実現に向けて取り組みます。

3R、ペーパーレス化、容器包装と物流資材のプラスチック削減_{※2}に注力し、環境負荷を可能な限り減らします。

3. 「自然共生社会」の実現に向けて取り組みます。

都内の緑地や里山、産直産地などで生物多様性保全と森林保全に取り組みます。

4. 「脱原発」の実現に向けて取り組みます。

グループや他団体と連携して取り組みます。また、組合員とともに電力事業を支え、再生可能エネルギーを広げます。

5. くらしの視点で組合員と環境活動に取り組みます。

くらしの視点で身近な環境問題に取り組み、石けん運動など組合員参加の環境活動を広げます。

※1: 2030年までに2013年度比で46%削減

※2: PETボトル商品を扱わないことを含む

1999年 10月 28日 制定
2013年 4月 1日 改定
2017年 6月 1日 改定
2023年 4月 1日 改定

生活協同組合パルシステム東京
専務理事 杉原 学



組合員との約束

パルシステム東京では、最高意思決定機関「総代会」での議決に基づいて事業活動を行っています。下記は2024年6月に開催された「総代会」で、総代（組合員の代表）により議決された内容（抜粋）です。

第32回通常総代会2号議案（事業活動方針）

2024年度 地球環境

1. 「環境・エネルギー政策」にもとづき、2030年に向けて「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」を目指した環境活動をすすめます。

- (1) パルシステムの電力事業を支え、発電産地交流を再開します。また、「脱炭素社会」に向けて、省エネルギーと再生可能エネルギーを社会に広げるとともに、事業所の温室効果ガス削減に向けた新たな手法の調査研究をすすめます。
- (2) 脱原発を目指して、核燃料サイクル、ALPS処理水海洋放出等に反対し、他団体や次世代と連携した取り組みをさらにすすめます。
- (3) 「循環型社会」を目指し、商品の包材や物流資材のプラスチック削減と3R（リデュース、リユース、リサイクル）をすすめます。また、石けん利用拡大、有害化学物質問題、生物多様性保全に取り組みます。

環境方針の5つの項目と取り組み

組合員との約束を環境方針の5つの項目に落としこみ、環境活動を推進しています。

1. 「脱炭素社会」の実現に取り組みます。

省エネルギー推進 再生可能エネルギー推進

2. 「循環型社会」の実現に取り組みます。

商品や物流資材のプラスチック削減など環境配慮商品の推進 3Rの推進 廃棄物削減

3. 「自然共生社会」の実現に向けて取り組みます。

生物多様性保全 森林保全

4. 「脱原発」の実現に向けて取り組みます。

原発の再稼働・核燃料サイクル・ALPS処理水海洋放出への反対 電力事業の推進

5. くらしの視点で組合員と環境活動に取り組みます。

石けん利用の推進 有害化学物質削減 その他



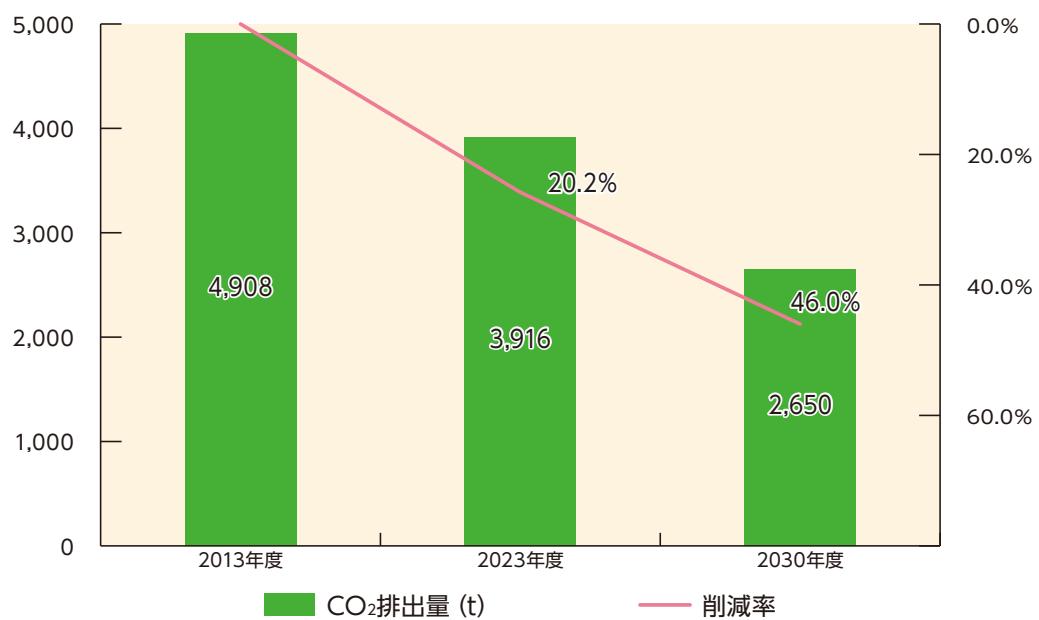
「脱炭素社会」の実現への取り組み

組合員とともに省エネルギーと再生可能エネルギーを社会に広げます。新たにパルシステムグループと連携して、省エネ推進を開始し、次世代に向けた気候変動対策に取り組みます。

CO₂排出量削減計画

パルシステム東京は、環境方針1.に掲げた、2030年にCO₂排出量を2013年比46%削減するというターゲットに向けたCO₂排出削減シナリオを策定し、脱炭素社会の実現に向けて、事業所におけるCO₂排出量46%削減を目指し取り組んでいきます。

<2030年までのCO₂排出量削減イメージ>



*CO₂排出量 (t) は、「基礎排出係数」で算出

*パルシステム東京の事業所、車両、ならびに供給事業を委託する委託協力会社の車両が対象

《2030年までの目標に向けた取り組み》

■省エネルギー機器・車両への転換

- ・環境配慮設備の導入をすすめます。既に導入している機器に加え、省エネ性能の設備について、費用対効果を検証した上で、新機種の導入を行います。
- ・次世代車両への切り替えをすすめます。低燃費車両・EV車両の他、CO₂排出量の少ない代替燃料について、投資回収計画の策定による投資範囲の検証を行い、車両の切り替えを検討していきます。

■再生可能エネルギーの導入

- ・事業所への自家消費型太陽光発電設備導入の他、非FIT電力、PPA(オフサイト・オンサイト)や自己託送などについて調査を行い、メリット・デメリットを踏まえて導入を検討していきます。

■その他

- ・環境証書(非化石証書)を活用したCO₂排出量削減について、検討をすすめています。
- ・配送コースの見直しによる配送効率の向上を図ります。走行距離を減らすことで車両燃料の削減を行います。
- ・センター、事務所のエネルギー使用量を削減します。引き続き、事務所内での節電を意識していきます。

温室効果ガス排出量削減の推進

「脱炭素社会」の実現を組合員とともに推進するために、気候変動そのものや取り巻く諸問題、様々な団体の取り組みについての学習会や意見交換など、一人ひとりが何をすべきか考えるきっかけとなる企画を実施しています。併せて、家庭の省エネも推進しており、出前講座やうちエコ診断を行いました。

気候変動の今を知る

進行する気候変動問題に対し、情報を更新したり、自分にできることを考えるきっかけとなる学習会を開催しました。気候変動が環境に与える影響のほか、政府のすすめるGXの問題点やエネルギー業界の現状も踏まえた再生可能エネルギーの必要性・課題などについて学びました。



6月 2023年度気候変動学習会 「気候危機の今と私たちのこれからの暮らし」



3月 次世代と話そう！気候変動トーク&トーク

世代を超えて学び合う！

気候変動は次世代にも大きく関わるテーマです。次世代と一緒に何ができるのかを考えるために、気候変動問題に取り組む次世代の若者団体4組を迎えて企画を開催しました。団体の活動紹介の後、参加者全員でグループトークを実施し、様々な視点で意見交換を行い、これからの活動へのヒントを得ることができました。



6月 滝野川らいふ委員会 省エネ出前講座

組合員同士で学び合う

研修や資格試験を経て省エネアドバイザーやうちエコ診断士となった組合員が出前講座の講師となり、現在地球で起こっている気候変動問題や家庭で簡単にできる省エネの取り組みなどを伝える講座を行っています。同じ組合員視点で課題を共有し、意見交換することでより身近なこととしての取り組みの輪が広がりました。



うちエコWEB診断をつかった簡易診断(みたかエコマルシェ)

イベントなどで簡易診断ができるブースを設置し、短い時間で気軽に受診できるようにしました。省エネに興味を持つきっかけづくりをしています。



うちエコ診断オンライン

わが家の現状に合った光熱費の見直しや省エネのコツをうちエコ診断士とマンツーマン(オンライン)で相談できる取り組みです。



*「うちエコ診断士」は、環境省の「うちエコ診断ソフト」を活用し、各家庭の光熱費やCO₂排出量を「見える化」し、各家庭の住まい方やライフスタイルに合わせた適切なアドバイスや提案を行うことができる、環境省認定の公的資格です。



「脱原発」の実現への取り組み

原子力に頼らないエネルギー政策への転換を目指し、様々な団体と連携して、核燃料サイクルやALPS処理水の海洋放出に反対するなど、脱原発運動に取り組んでいます。また、パルシステムの電力事業を支え、発電産地交流を行っています。

脱原発の推進

連携して運動を推進！

2023年度は次世代の若者団体「ワタシのミライ」とも連携し、原発とGX法案に反対する院内集会に参加しました。

9月と3月には、脱炭素・脱原発を訴える集会・パレードに参加、9月の集会は「さようなら原発1000万人アクション実行委員会」「ワタシのミライ」「Fridays For Future Tokyo」の三団体共催で開催されました。従来の集会に加え、次世代の若者によるパネルディスカッションや歌などのプログラムもあり、様々な世代が交わる集会となりました。パルシステム東京では、脱原発や「パルシステムでんき」のPRブースを出展しました。



9月 ワタシのミライ No Nukes & No Fossil, 再エネ100% 正公な社会へ (旧: さようなら原発全国集会)

原発について知ろう



2月 脱原発学習会 コストから考える選ぶべきエネルギーとは



原発のコスト面に焦点を当て、原発そのものや取り巻く社会状況について学ぶ学習会を開催しました。2024年1月に発生した能登半島地震による志賀原発の被災状況や全国の原発の被災リスクについて、さらにはGX政策の策定経緯から電源としての原発の位置づけ、コストにおける問題点や今後の見通しを学び、私たちがどのような電源を選択していくべきかを考えるヒントになりました。

パブリックコメント・声明文の提出

提出日	意見書名	宛先
7月 27日	「脱炭素社会の実現に向けた電気供給体制の確立を図るための電気事業法等の一部を改正する法律の一部の施行に伴う実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則等の改定案等に対する意見」を提出しました。	原子力規制庁原子力規制部 原子力規制企画課
7月 30日	「漁業者や消費者の不安を拭えない ALPS 処理水の海洋放出に断固反対します」 声明文を提出しました。	経済産業大臣 水産庁長官
9月 21日	「漁業者や消費者の不安を拭えない ALPS 処理水の海洋放出（方針）の見直しを求めます」 意見書を提出しました。	経済産業大臣 水産庁長官

自分の意見を
提出しよう！

「書いてみようパブリックコメント
ワタシの意見の伝え方」動画



PCver

スマホver

2023年度はALPS処理水の放出やGX脱炭素電源法の制定など、パブリックコメントを提出する機会が多くありました。パブリックコメントは少し敷居が高いと感じている方のために、簡単な『パブリックコメントの書き方』の手引きを動画で作成しました。一人ひとりが行政へ意見を届ける一助となることを目指しました。



再生可能エネルギーの推進

パルシステム東京では化石燃料や原子力由来の電気ではなく、再生可能エネルギー由来の電気利用を推進しており、再生可能エネルギーを主電源とする「パルシステムでんき」の組合員普及や事業所での利用、配送センターへの太陽光発電設備導入などにも取り組んでいます。

パルシステムでんきの推進

「パルシステムでんき」は2011年に策定されたパルシステム東京エネルギー政策を起点として始まり、2016年からはグループ全体の組合員への電力供給へと広がりました。再生可能エネルギーを中心とした電力供給を目指し、産地と組合員の交流などに取り組みながら利用普及をすすめています。

■供給規模

供給事業所数	グループ 96 事業所
組合員契約数	グループ 39,202 件 (パルシステム東京 12,826 件)
総電力供給量	191,398,000kWh (前年比 93%)
FIT電気+再エネ率	70.5% (前年比 115%)

2024年3月末時点



11月 那須野ヶ原土地改良区連合役職員小水力発電施設見学

見学の様子は
こちらから



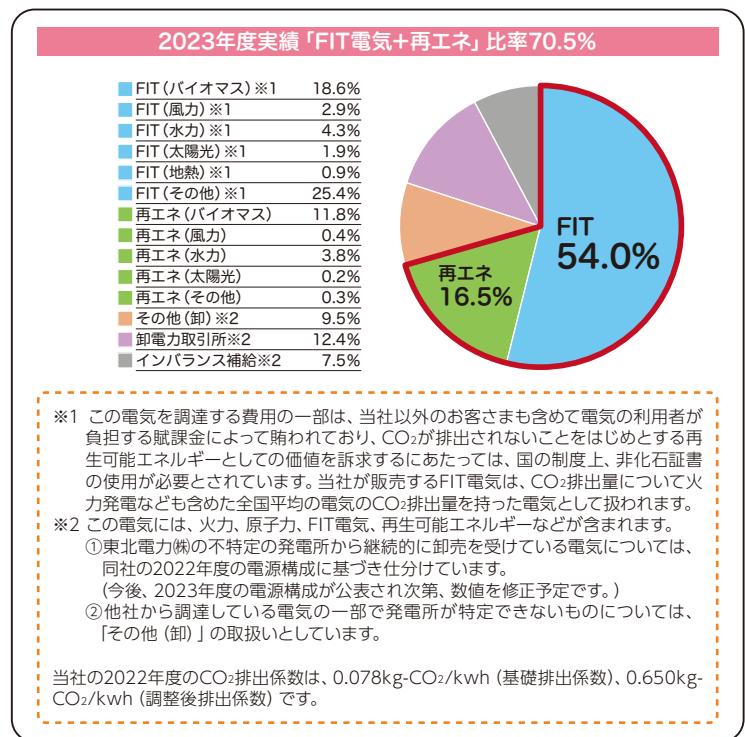
■2023年度のパルシステムでんき

2022年は卸電力市場の市場価格が高止まりしていましたが、2023年春頃からの燃料価格の下落に伴い、市場価格も下がりました。併せて、パルシステム電力では2023年2月検針分から市場価格調整を導入することで経営状況が回復し、安定した運営が出来る見通しが立った為、10月より「パルシステムでんき」の新規申込受付を一部再開しました。

また、新たな発電産地として、山梨県の大型水力発電を3社（パルシステム電力、地球クラブ、UP DATER）共同で契約しました。この電源は2024年4月から3年間、「パルシステムでんき」の再生可能エネルギーとして供給します。

■取扱量実績（2023年度）

種類別電源量	合計 (kWh)
FIT 電気（バイオマス）	45,533,885
FIT 電気（風力）	7,020,048
FIT 電気（水力）	10,498,735
FIT 電気（太陽光）	4,576,011
FIT 電気（地熱）	2,309,567
FIT 電気（その他）	62,476,927
再エネ（バイオマス）	28,867,110
再エネ（風力）	890,676
再エネ（水力）	9,305,309
再エネ（太陽光）	518,268
再エネ（その他）	939,888
その他（卸）	23,339,229
卸電力取引所（通常仕入）	30,499,500
インバランス補給	18,464,421
仕入れ電力量合計	245,239,574





「循環型社会」の実現への取り組み

「循環型社会」を実現するために、商品作りや組合員参加を通して、リデュース（発生抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の優先順位で3Rに取り組んでいます。

パルシステムでは、限りある資源を大切に使い、100%国内でマテリアルリサイクルを実現しています。グループ全体では29商品のプラスチック製容器包装を見直し、排出総量は4,249.4トン（前年比95.2%）となりました。さらに、再生プラスチックを100%原料にして製造した冷蔵・冷凍品などの保冷箱と蓋を一部導入しました。今後も検証しながら、切り替えをすすめています。

プラスチックごみ問題、3Rの推進、廃棄物削減

おとなも子どもも一緒に学ぶ循環型社会

3Rや廃棄物に関する学習会や体験を通して、くらしを見直すきっかけを提供しています。

普段何気なく使っているプラスチック製品が使い終わってごみとなった時、地球や生き物にどんな影響を与えるのかを学ぶ学習会や、実際に海岸へ行ってプラスチックごみを集める体験、さらにはパルシステムのリユースびんを洗う工場の見学を通して、プラスチックごみを出さない暮らしについて考えることができます。



9月 プラスチック問題と海鳥への影響
～海鳥を守るために私たちにできること～



1月 パルシステムに出すリユースびんはどうなる?
洗びん工場見学ツアー



3月 お台場海浜公園でマイクロプラスチック採取
ビーチクリーンボランティア体験

リユース・リサイクル回収量

回 収 量		2021	2022	2023
リユースびん	本	919,952	916,399	880,344
紙（牛乳）パック	kg	199,581	190,067	181,399
ABパック・ヨーグルトカップ	kg	64,486	63,968	65,875
商品カタログ	kg	4,403,173	4,347,885	4,027,382
注文用紙	kg	79,235	74,157	65,042
資源プラスチック	kg	133,483	122,561	112,649
米袋	kg	14,832	17,132	16,688
お料理セットトレー（紙）	kg	—	—	73,755
たまごパック	kg	255,597	245,877	236,494

グループ全体で「みんなで戻してポイントアップ!～プラ・リサイクル大作戦2023～」や「リユースびん回収率向上キャンペーン」などを実施し、リユース・リサイクルを促進しました。また、2023年10月より新たに小型ヨーグルトカップ2種の容器が回収対象になりました。各種対象商品のリユース・リサイクル回収強化を継続的にすすめます。



回収できるようになります♪



「自然共生社会」の実現への取り組み

人間の生活は、食料や水、気候の安定など、多様な生物が関わり合う生態系から得られる様々な恵みによって支えられています。その生物多様性を脅かしている要因のひとつは、野生生物の生息地の消失と劣化であり、これは人間の活動による自然資源の過剰な利用や、外来生物の侵入などが大きな影響を与えています。この問題は今後も深刻化する可能性があります。パルシステム東京では、自然への影響を理解し、学び、実践していくために、多方面で活躍する多くの方々の力を借りて企画を開催し、いなざめぐみの里山では竹林保全の取り組みなどを継続的に行ってています。

生物多様性保全と森林保全

森林保全を体感する

東京都稻城市にあるパルシステム東京「いなざめぐみの里山」は組合員が参加できる場（農と緑の里山体験ゾーン）として2004年に開設されました。

2023年度4月、7月、10月には森を守るための竹の間伐体験や間伐した竹を使った工作、6月には里山散策と昆虫などの生き物探しを行いました。

このような活動を通じて、自然と触れ合いながらどのように里山が活用されてきたのか、そして里山を保全する大切さなどを学ぶことができました。また委員会主催企画の「ガイドと歩く高尾山自然観察会」では自然の中で四季の変化や高尾山の森林保全の取り組みについても学ぶことができました。



6月 いなざめぐみの里山 自然と昆虫観察会

生物多様性を学ぶ・守る



2月 C.W.ニコル・アファンの森財団講演会



3月 井の頭公園 自然観察会と自然を守る取り組み

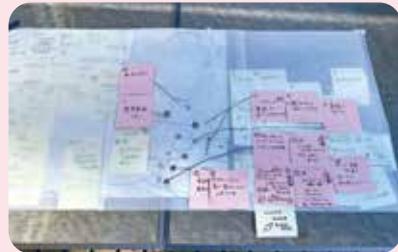
里山と地域の自然を守る活動への理解をさらに深めるために、生物多様性の基本や森再生の事例を学ぶ講演会を開催しました。また、都内の公園や大学など身近な場所で行われている保全活動の見学や生き物探しも行いました。これらの活動を通じて、山深い場所から都心の公園まで、それぞれの場所で生物多様性が存在することやその意義、大切さを学びました。

いなざめぐみの里山森づくり計画策定タスク

第31回通常総代会2号議案（事業活動方針）に基づき、里山全体の将来にわたる整備方針を策定するために、タスクを設置しました。2024年度上半期を目途に複数回のワークショップ（観察会）を経て、理想的な里山の姿を創造し、将来の保全作業の担い手を醸成することを目的に再生計画と整備方針の検討をすすめます。タスクメンバーはアドバイザー、組合員、組合員理事、里山企画業務委託先、事務局職員で構成され、植物、野鳥、昆虫などの観察を通じて今後の里山のあり方を議論して、2024年9月を目途に最終報告をとりまとめます。

« いなざめぐみの里山森づくり計画策定タスクの目的 »

- ①いなざめぐみの里山における「自然環境再生を視野に入れた森づくり」を計画し、整備方針を策定する。
- ②地域や行政・有識者など多様な視点で理想的な里山の姿を議論し、創造する。
- ③将来に渡る保全全体の担い手を醸成していく。





くらしの視点で組合員と環境活動に取り組みます。

石けん利用の推進

1970年代に深刻となった湖や河川の環境汚染を解決しようと取り組んだ「石けん運動」は40年以上続く活動となりました。植物や天然の油脂が原料の石けんは人の肌にやさしく、水に流れると短期間で分解され自然に還ります。次の世代へきれいな水環境を残すために、石けんを知ってもらう学習会の開催や石けんの利用促進、石けん生活の提案に取り組んでいます。

みんなに石けんを知ってもらいたい！

パルシステムが石けんにこだわる理由や石けんの良さを多くの組合員に知ってもらい、石けんに触れてもらう機会を増やすため、パルシステム東京独自の石けんチラシの配付や、石けんのWebマンガの作成、石けんを試してもらう機会を提供するなどに取り組みました。



石けんWebマンガ

石けんに触れて、使ってみて良さを知る

石けんの使い心地や香りなどを試してみたり、石けん工場を見学してメーカーの石けん商品へのこだわりや特徴を教えてもらうなど、石けんを生活に取り入れてもらうきっかけとなる企画を開催しました。また、石けんの基本的な知識や石けん洗濯、自然派おそうじのポイントなどを組合員同士で学び合う石けん出前講座も行われており、使用していく中での疑問などを共有し解消することで継続利用にもつながっています。



8月 みんなで行こう石けん工場見学ツアー



7月 田園調布委員会石けん出前講座



石けんのお試しセットの活用 (東砂A委員会)

石けん商品の供給点数推移

石けんの受注点数は前年比90.3%でした。

石けんの価格変更もあり、受注点数は低めとなりました。しかしながら、パルシステム東京独自で制作した石けんの使い方のコツやおすすめポイントなどを掲載したチラシを発行した結果、発行企画回の受注金額が向上し、パルシステムグループの石けん利用促進をけん引しました。

(8月2回：前年比101.2%、2月4回：前年比192.5%

※受注金額)



8月・2月 パルシステム東京オリジナル石けんチラシ

連携して運動
を推進！

せっけん運動ネットワークは1981年に、せっけん運動を推進する協同組合や生産者団体が中心となり設立されました。せっけん使用を入り口に環境保全を考えるネットワークで、パルシステム東京もこの取り組みに参加しています。

毎年7月はシャボン玉月間と位置づけ、石けんのPRを行っており、パルシステム東京でもPRポスターの原画募集や完成ポスターの委員会企画への掲示、デジパル（事業所内電子掲示板）配信などを行いました。また、会員によるシャボン玉月間の行政訪問・首長メッセージの依頼も行われ、パルシステム東京の組合員は清瀬市長より石けん運動を応援する趣旨の首長メッセージをいただきました。

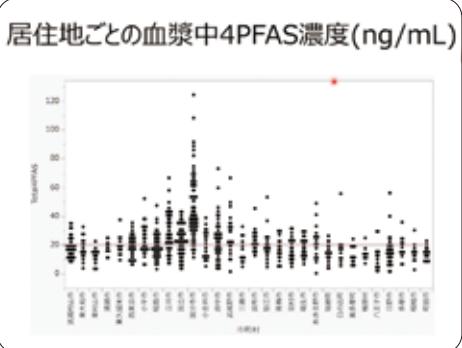
9月30日にはシャボン玉フォーラムinみやぎ（受け入れ団体：あいコーポみやぎ）が開催され、パルシステム東京役職員6名（現地参加3名）が参加しました。テーマは「好きだっちゃ せっけん！のぞいてみっぺし東北の海」で、鍵井靖章氏（水中写真家）による「青い地球（ほし）の生命の物語」の基調講演のほか、各種報告会や漁協関係者によるパネルディスカッションが行われました。



2023年度シャボン玉月間ポスター

有害化学物質の削減

身の回りには様々な化学物質がつかわれており、中には生き物や環境に有害な影響があるものもあります。それらが私たちの暮らしにどのように関連しているのか、どのような影響があるのかについて、行政の取り組みも含め、専門家による学習会などを行っています。



原田 浩二 氏

地下水のPFAS（有機フッ素化合物）汚染により2019年から東京都多摩地区で一部の水源井戸の取水が停止されたり、市民団体による血液検査がニュースで取り上げられるなど、組合員の中でのPFAS問題への関心が高まりました。

そのような組合員の声を受け、PFAS問題の学習会を開催しました。PFASの基本情報、世界や日本での汚染現状、規制などについて幅広く知ることができました。



パルシステムから環境取り組みを広めたい！ パルエコアース誕生！

パルエコアースとは？

職員全体で環境方針に取り組むためにうまれた環境担当。各センターから一人ずつ選ばれました。みんなで話し合い、環境問題やエコなことをパルシステムから発信して地球規模に広めていきたいという想いで『パルエコアース』と命名！「楽しく、緩やかに」を行動テーマに環境問題やパルシステム東京の取り組みについて学びます。



2023年度は、高尾山登山とごみ拾いボランティア、石けんメーカーの工場見学を行いました。学んだ内容をセンターニュースに掲載したり、朝礼で報告するなど、組合員や一緒に働く職員と共にし、環境意識の輪を広げました。また、「地球の未来にまじめなボディソープ」のモニター企画を発案・実施し、石けんの良さを知ってもらう取り組みも行いました。

環境には関心がありましたが、一人で行動するには大きすぎる課題だと感じていたので、みんなで考えて行動できたことが良かったです。工場見学では石けんにとても興味が湧き、今ではすっかりファンになりました。パルシステム東京の理念である「地球環境」は世界中で話題になっているワードなので、1期生としてその基盤を作れたことは誇りに思います。リサイクルに力を入れていきたいですし、石けんキャンペーンの取り組みもチャレンジしてみたいと思います。

(池尻センター 上地)

正直、とても楽しかったです。パルシステムに勤めているため、環境のことはいつも頭の片隅にありました。これほど環境について考えたのは生協人生で初めてでした。ただ買う・売るというだけでなく、売り手の思いも含めて、パルシステムの環境に配慮した商品づくりを改めて再認識する機会になりました。日々の業務で忙しい中でも、環境への取り組みについて組合員や職場の仲間に共有できることができれば、隨時発信していきたいです。

(昭島センター 谷)

プライベートでも環境に配慮して行動していましたが、パルエコアースで高尾山や石けん工場に行き、昔と今の高尾山の話を聞いたり、石けんの商品開発・生産について熱い話を聞けたことで、商品についてもよく知ることができ、有意義でした。また、どちらも人とのつながりを通じて学ぶことができました。「地球の未来にまじめなボディソープ」のモニター組合員から言われた「教えてもらわないとわからなかった」の声を忘れず、学んだことを伝えていきたいです。

(八王子センター 平岡)

様々な環境の取り組みを改めて学ぶきっかけとなりました。一番印象に残ったのは石けん工場見学です。楽しく学び、パルシステムが石けんをお勧めしている理由がとても良くわかりました。パルエコアースの活動をセンターで共有することでパルシステム東京全体の環境への意識を高めることにつながったと感じています。センター独自の「地場野菜×環境」取り組みと同じようにセンターで働く職員を巻き込んで楽しく学ぶ機会を作ってみたいです。

(府中センター 重見)



事業活動と環境

環境マネジメントシステム

パルシステム東京は、次世代へつなぐ持続可能な社会をつくるため、環境方針に沿って各部門で目標を設定し、CO₂削減に向けた取り組みなどを実施しています。

環境活動の評価は専務理事の諮問機関「環境監査委員会」（組合員、有識者で構成）で、2023年度は年4回実施しています。
(環境監査委員の所見は17~19ページ)

■2024年度EMS推進体制

2023年度は、環境マネジメントシステムの見直しを実施しました。マニュアルの見直しや電子化による紙削減、内部環境監査の内容を精査し内部業務監査への統合を行いました。また、これまで各配送センター・各福祉施設で設けていた環境目標を部門毎に設定する運用に変更し、全部門が環境活動に関わる仕組みを構築しました。2024年度は、2023年度の各部門の取り組みから職員全体へ広げることが課題です。

環境管理最高責任者
(専務理事)

環境管理責任者
(業務執行理事)

諮問機関
環境監査委員会
(外部有識者2人)
(組合員3人)

EMS推進会議

事務局
(環境推進課)

マネジメント推進室

人事部

人材戦略室

総務部

広報室

機関運営室

政策・環境推進部

事業推進部

組織部

経理部

福祉事業部

商品・産直推進部

配送センターサイト
17事業所

福祉事業所サイト
10事業所(単独事業所)

実行:全部署・全役職員

事業活動における資源の使用と排出量

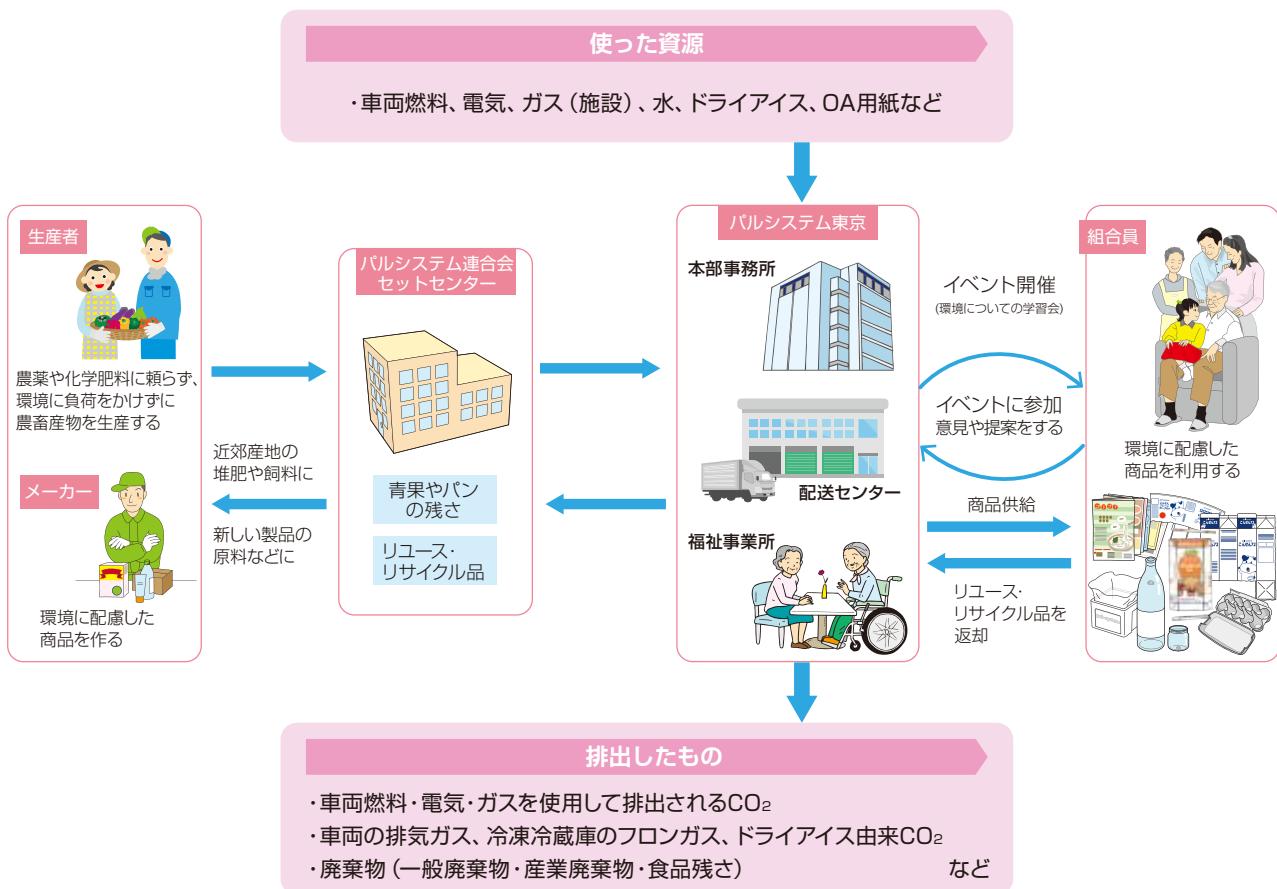
パルシステム東京は2023年4月に改訂した環境方針に掲げている「脱炭素社会」や「循環型社会」の実現に向けて事業における環境負荷の低減に取り組んでいます。

今まで施設管理などハード面の取り組みを強化してきた事で電気使用量を削減してきましたが、今後はソフト面の強化を意識し、工夫をしていく必要があります。機器の情報収集や福祉を含めた職員のeラーニングによる環境教育だけではなく、各配送センターから1名ずつパルエコアース（環境担当）を選出し、環境に対する意識向上の底上げになる土台が作れた年となりました。11月から3か月間、パルシステムグループ内で冬の節電キャンペーンを行いました。節電の取り組みでパルシステム東京が特に削減率が高い会員生協となり、車両燃料やガスの使用量も前年よりも削減する事ができました。他にもパルシステムでんきの発電産地にある「環境価値（CO₂を排出しない価値）」の活用調査として、「FIT非化石証書」を昭島センターへ紐づけし、同センターにおける電気由来CO₂の排出量ゼロ化（カーボン・オフセット）を行いました。

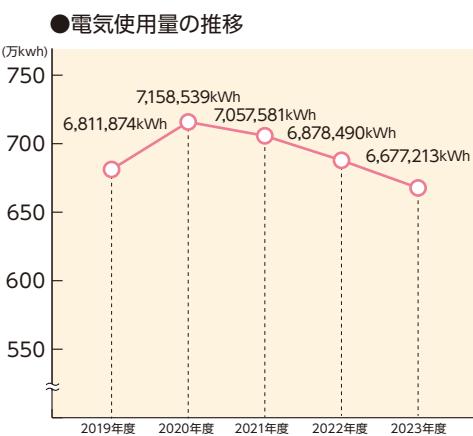
目標を達成し続ける事は容易ではないですが、今後も時代に合わせたさまざまな取り組みを行い、組合員と一緒に工夫を重ねて取り組んでいきます。



2023年度に使用した資源の量



電気の使用量



■2023年度に導入した省エネ設備



αESG

配送センターの太陽光発電状況／年【自家消費用】

大田センター	2,302kWh	昭島センター	60,343kWh
多摩センター	2,860kWh	八王子センター	52,593kWh
江戸川センター	3,970kWh	江東センター	50,452kWh
足立センター	106,965kWh		

省エネ設備の導入についても積極的に取り組みを行っています。太陽光パネルについては耐荷重などで取り付け可能なセンターは全て設置が完了しました。2023年度導入したKE2は一定の効果が見られたので引き続き導入を広げています。そしてEVトラックも昭島センターで初めて導入されました。他にも冷却装置に関連するエコクーリングエースやαESG、スペースクールなども実験的に導入をしましたが、効果を検証して今後導入を広げるか検討していきます。

車両燃料の使用量(ガソリン換算)



■燃料別の使用量(ℓ)

車両燃料	種別	2021年度	2022年度	2023年度
	ガソリン	745,958	783,861	814,049
軽油	175,087	182,356	184,835	
LPG	209,174	159,661	106,862	

	2019	2020	2021	2022	2023
ガス（施設）使用量	50,564m ³	36,829m ³	29,789m ³	27,647m ³	26,188m ³
水使用量	30,100m ³	29,900m ³	31,100m ³	29,649m ³	31,726m ³
OA用紙発注量	166.6 t	133.7 t	132.5 t	138.2t	135.3t
ドライアイス使用量	4,680t	4,856t	4,691t	4,492t	4,519t
廃棄物量（産業廃棄物）	42.4t	38.0t	35.4t	29.0t	28.4t
廃棄物量（一般廃棄物）	75.1t	105.8t	102.7t	103.0t	85.7t
リサイクル残さ (中野・第二中野・府中・足立陽だまり)	5.3t	5.7t※	8.3t※	7.4t※	6.5t※

※併設の「ぱる★キッズ」「グループホーム」を含みます。

2023 年度環境活動に関する監査所見

2023 年度環境監査委員長 中山 勝博
ISO 審査員

2023 年度は、5 月に新型コロナウィルス感染症も 5 類感染症に移行となり「濃厚接触者」などもなくなり、コロナ禍以前の生活に戻り始める 1 年となった。

今年度の諮問内容は、重点項目である『「環境・エネルギー政策』にもとづき、2030 年に向けて「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」を目指した環境活動』に加えて、組合員の関心も高いプラスチック削減の取組みへの評価であった。

その結果は、「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の 3 つの社会に対する取り組みは、ほぼ目標を達成することが出来ている。唯一未達成であった項目は「資源プラスチック回収率実績の向上」であり、それでも目標値 28.3% 以上に対し実績値 26.6%（達成率 94.1%）であった。

この項目を達成するには、組合員の方々へ必要性をアピールし、組合員の方々が協力いただき達成する内容である為、組合員の方々も、自らがパルシステム東京の環境活動に関わっているとの意識を持っていただければ今後達成が出来る項目であると理解をいただきたい。

一方、プラスチック削減に関しては、29 商品のプラスチック製容器包材の対応を行い排出量は 4,249.9 t（基準年の 2021 年度比 89%、前年比 95.2%）と大きな成果を上げている。

この事から今年度の諮問に対する結果は評価できる内容であった。

この諮問内容は、今後も 2030 年に向けてパルシステムグループ「環境・エネルギー政策」に向けての重要な項目である。

この中でも「脱炭素社会」に向けての対策が一番難しいと思われるが、EV トラックや各センターへの環境配慮型設備の導入を行い、より効率の良い設備を水平展開されている事から今後への期待が高まっている。

次年度より、我々環境監査委員会は体系を変えて、協力することになり、「現地審査」を実施しないことになった。

コロナ前では、各センターの状況は「現地審査」の指摘がなくては不安な状況であったが、ここ数年の状況は我々が指摘する内容がほとんどない状況まで改善されている為、我々第三者が「現地審査」を実施しなくても良いと判断した。今後も貴組合内での監査でより良い環境活動が出来ることを期待している。

環境監査委員 飯田 研吾
弁護士

2023 年度、貴組合では、環境マネジメントシステム（EMS）の再編が行われました。

その背景には、運用手順やシステムの複雑化に伴う現場負担や形骸化、職員の関与の減少などが挙げられていますが、これらの点は、2022 年度の環境監査を通じて私が感じことと共通するところがあり（2022 年度の監査所見にも書かせていただきました）、個人的には素晴らしい取り組みだと思います。

とりわけ、各センターにおける「環境担当者」の配置については、既に環境活動の意義を伝えたサイトニュースの作成やセンター周辺のゴミ拾いの実施といった自主的な行動に結びついているとのことであり、環境活動に対する全職員の意識を高め、主体的な取り組みに繋げていくための施策として、今後も大いに期待しています。

他方で、EMS の再編にあたっては、一部のサイトが監査の対象から漏れてしまうといった問題も見受けられました。もっとも、見方を変えれば、問題を早期に発見し見直しを図ることができたという点で、EMS が適切に機能しているともいえ、ポジティブに捉えてよいと思います。

ちなみに、2023 年の SDGs 達成度ランキングで日本は世界 21 位、ランキングが公表されてから最も低い順位でした。中でも、気候変動対策は、深刻な課題がある項目の 1 つです。貴組合においては、2024 年度、「脱炭素社会」の実現に向けた取り組みをより一層具体化することに力を入れていくということですが、失敗を恐れず様々な取組みにチャレンジしていただきたいです。

環境監査委員 山本 夏実
パルシステム東京 組合員

カーボンニュートラルを実現するのには、支出量を崖から飛び降りるような急カーブのグラフを生成できなければならない。地球沸騰かと呼ばれる昨年は気象庁観測史上一番の暑い夏だったことを数値で示した。そして 2024 年はそれを上回る気温帯で推移しているそうだ。そのような中パルシステム東京では全職員が自分事として考える取組の一環として「パルエコアース」の設置を実施。事業形態として配送などエネルギー支出を削減することに限界がある中、常に新しい取組みを実施している。2022 年までは一組合員として、パルシステム東京の環境監査に参加していた。今年度から組合員理事として「平和・地球環境政策」に携わることとなった。運営側に立場が変わることで、取組の一つとして紹介されている内容に深くかかわることができた。いなぎめぐみの里山森づくり計画策定タスクだ。保有する土地の 2.1Ha が稻城市の「自然環境保全地域」指定されている。人の手が入ることで遷移を防ぎ、この土地らしい保全について参加者で検討している。豊かな生物多様性を次世代につなぎ、豊かな森の存在意義を伝えてゆきたい。

今年度の環境監査は 2018 年に新設された足立福祉棟だった。初めてオブサーバーと参加した年、監査を実施した場所もある。コロナが 5 類となり正常化した日常を取り戻したかのように感じていたが、利用者やご家族にとっては安息の日はまだ遠いようで利用者は通常運用ではない。その中で外国人実習生の方も交え運営をされている。保育施設も規格外野菜を通しての産地交流の様子が伺えた。今回の環境監査においてはほぼ改善を求めるようなことはない。心を育てる、人を大切にする組織である、数値では具現できない取組を改めて評価したい。

環境監査委員 宮崎 みどり
パルシステム東京 組合員

2023年度、新型コロナが5類に移行され経済活動が活発化する中で、パルシステム東京は環境に配慮したさまざまな活動を続けてきました。

「脱炭素社会」の実現に向けて、CO₂排出削減につながる設備が各事業所に導入されています。加えて各事業所には新しくパルエコアース（環境担当）を配置され、環境活動の推進を図っています。

また、パルシステムでんきでは、バイオマス発電・水力発電・太陽光発電・風力発電・地熱発電などを発電産地と協働して行っています。今年4月には、この自然の力を利用した持続可能な電力供給の新規申し込みが再開されています。今後は、これらの電力供給がより拡大されていくことを期待します。

「循環型社会」の実現においては、プラスチックの使用削減に努めたり、環境に配慮した商品の原料調達を進めたりするなどしています。この取り組みは年々拡大し、紙製トレーをはじめ多岐にわたっています。

私たち組合員が参加できる、身近な取り組みとして挙げられるのは3R活動です。組合員が皆で取り組むことで大きな成果となります。他にも身近にできる環境へのアプローチは多くあり、石けんの利用もその一つです。まずは家の洗剤の一部分を石けんに変えてみるのも良いかと思います。

パルシステム東京を通して持続可能な社会を作るそのプロセスは、生活そのものです。「人の暮らし」と「環境」は切り離せないものであるからこそ、次世代に良い環境を手渡すための幅広い環境活動を今後も期待しています。



卷末資料：開催企画一覧

種別	開催日	組合員企画 内容・講師	参加者数
自然共生	4/29 (土)	いなぎめぐみの里山 森林保全と竹の伐採体験 【講師】岩下 広和氏（認定NPO法人JUON NETWORK）他	5組11人
自然共生	6/17 (土)	いなぎめぐみの里山 自然と昆虫観察会 【講師】須田 真一氏（東京大学総合研究博物館研究事業協力者） 岩下 広和氏（認定NPO法人JUON NETWORK）他	9組26人
脱炭素	6/24 (土)	2023年度気候変動学習会 気候危機の今と私たちのこれから暮らし 【講師】桃井 實子氏（特定非営利活動法人気候ネットワーク 東京事務所長）	65人
自然共生	7/2 (日)	いなぎめぐみの里山 森林保全と七夕工作 【講師】岩下 広和氏（認定NPO法人JUON NETWORK）他	5組12人
くらし	8/10 (木)	みんなで行こう！石けん工場見学ツアー 【講師】堀 清貴氏（太陽油脂株式会社）	8組16人
くらし	9/23 (土)	プラスチック問題と海鳥への影響～海鳥を守るために私たちにできること～ 【講師】山本 裕氏（公益財団法人日本野鳥の会自然保護室自然保護グループ）	23人
自然共生	10/9 (月)	いなぎめぐみの里山の間伐材を使った竹工作 【講師】岩下 広和氏（認定NPO法人JUON NETWORK）他	3組7人
くらし	10/14 (土)	有害化学物質汚染学習会～身近な生活に広がるPFAS汚染の現状と課題～ 【講師】原田 浩二氏（京都大学医学研究科環境衛生学分野 准教授）	45人
自然共生	10/14 (土)	～秋の親子生き物観察会2023～ わくわく生き物探検隊in東京大学 【講師】須田 真一氏（東京大学総合研究博物館研究事業協力者） 安川 雅紀氏（東京大学地球環境データコモンズ 准教授）	11組25人
循環型	1/27 (土)	パルシステムに出すリユースびんはどうなるの？洗びん工場見学ツアー 【講師】戸部 昇氏（株式会社トベ商事 代表取締役会長）	6組8人
自然共生	2/17 (土)	～C.W.ニコル・アファンの森財団講演会～アファンの森からのメッセージ 生物多様性ってなあに？ わたしたちとの大切なつながり 【講師】野口 理佐子氏（一般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団 専務理事）	60人
脱原発	2/25 (日)	脱原発学習会 コストから考える選ぶべきエネルギーとは 【講師】大島 堅一氏（龍谷大学政策学部 教授／原子力市民委員会 (CCNE) 座長／日本環境会議 代表理事）	34人
自然共生	3/3 (日)	井の頭公園 自然観察会と自然を守る取り組み 【講師】佐藤 方博氏（認定NPO法人生態工房 事務局長）他	16組26人
循環型	3/10 (日)	お台場海浜公園でマイクロプラスチック採取とビーチクリーンボランティア体験 【講師】パルシステム東京環境推進課 職員	14組27人
脱炭素	3/16 (土)	次世代と話そう！ 気候変動トーク＆トーク 【講師】飯塚里沙氏（国際環境NGO 350.org Japan）、富永徹平氏（日本若者協議 環境・SDGs委員会）、福代美乃里氏（Fridays For Future Tokyo）、小出愛菜氏・小笠原和叶氏（Climate Live Japan）	12人

種別	開催日	その他（ブース出展など）	主催者発表
脱原発	9/18 (月)	ワタシのミライNO Nukes & NO Fossil、再エネ100%公正な社会へ (旧：さようなら原発全国集会) 主催：3団体共催（さようなら原発1000万人アクション実行委員会、ワタシのミライ、 Fridays For Future Tokyo）	延べ 8,000人
循環型	10/22-23 (日・月)	見て、聞いて、話そう！交流フェスタ2023 主催：東京都消費者月間実行委員会	約18,500人
脱炭素・循環型	11/19 (日)	みたかエコマルシェ 主催：NPO法人みたか市民協同発電	—
脱原発	3/20 (水)	さようなら原発全国集会 主催：「さようなら原発」一千万人署名市民の会	約6,000人



卷末資料：リユース・リサイクル商品一覧

パルシステムでは、お届けしたもののうち、特定の容器・包装は毎週回収し、資源循環と廃棄物の削減に取り組んでいます。リユース・リサイクル対象商品やカタログに表示している「Rマーク」が目印です。リユースすることが難しい商品カタログや容器包材なども、パルシステム独自の回収・リサイクルの仕組みづくりに取り組んできました。回収された資源はパルシステムのリサイクルセンターで選別・圧縮などの処理をして再生工場へ送られ、新しい商品や再生原料などに生まれ変わります。

<リユースびん一覧>

リユースびん一覧

できるかぎりパルシステムのなかで資源が循環する、環境に配慮した仕組みづくりをしています。
QRコードで確認できます。

回収したその先は？

- リユースびん
よく洗って ➤ びんとして再使用
- 商品カタログ
➤ いろんな紙製品に
- 紙パック類
➤ トイレットペーパー、ティッシュペーパーに
- たまごパック
洗かけて再り ➤ たまごパックに
- 「お料理セット」のトレー
洗かけてあり ➤ 「お料理セット」のトレーに
- 富士の天然水ボトル
洗かけて再り ➤ ペットボトルに
- 米袋、カタログ・商品まとめ袋
➤ 再生プラスチックの原料に
いろいろなプラスチック製品に

詳細はこちら！

※対象商品（2024年3月現在扱っている全商品）
※商品名、パッケージの写真は2024年3月現在のものです。

環境への取り組みはまだまだ進化中！
今後も随時お伝えしていきます。

リユース・リサイクルガイド2024

<リユース・リサイクル対象>





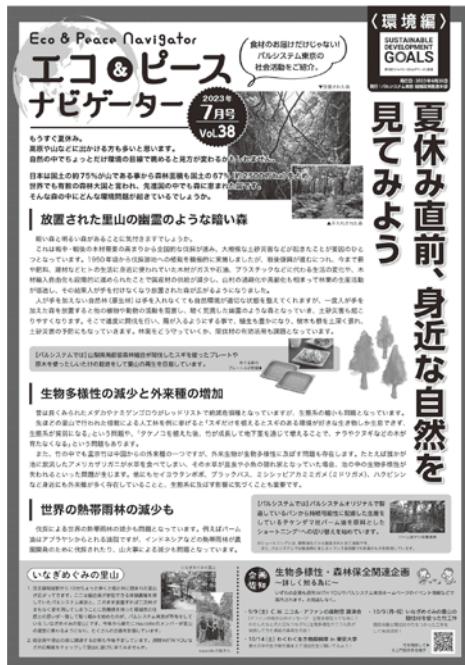
卷末資料：広報活動

環境に関する情報発信を不定期機関紙「エコ&ピースナビゲーター」や機関誌「わいわい」、パルシステム東京HPなどを通して内外へ発信しています。

エコ&ピースナビゲーター (2023年度5回発行)

<7月号>

夏休みのお出かけ前に日本の森林について興味を持つ
てもらう特集をしました。



<11月号>

パルシステムのリユース・リサイクルの特長をクイズで
出題し、わかりやすく伝えました。



機関紙「わいわい」

実施した企画の
まとめ記事を掲載しています。



<YouTubeやSNSでの配信>

多くの方に取り組みを知ってもらうためにパルシステム東京公式X、Instagram、YouTubeで環境企画の告知や開催報告、学習会アーカイブ、商品のPRなどを発信しています。





生活協同組合パルシステム東京

発行 生活協同組合パルシステム東京 政策・環境推進部 環境推進課
〒169-8526 東京都新宿区大久保 2-2-6 ラクアス東新宿 7F
TEL 03-6233-7642

[ホームページ](#) [パルシステム東京](#) <https://www.palsystem-tokyo.coop/>



発行日 2024年7月19日